

京都大学	博士（ 教育学 ）	氏名	平 知宏
論文題目	比喩理解における解釈多様性と身体化認知		
（論文内容の要旨） 本論文は、比喩理解における解釈多様性と身体化認知の問題に関して、実験法と質問紙法を用いて実証的に解明したものである。 6 章、10 個の研究から構成されている。 第1章の「序論」では、比喩研究の基本的概念を整理し、心理学における比喩研究の意義について論じている。第1節では、本論文全体の構成と目的を述べ、第2節では、本論文の用語と指標に関する定義と議論を行っている。 第2章「比喩研究の動向と展望」では、第1節「比喩研究の射程」において、先行研究のレビューを行い、比喩の理解過程と比喩と身体化認知の2つを中心に検討している。第2節「比喩の理解過程」では、従来の研究では比喩の理解過程について議論されているだけであり、理解した内容について議論されることが少ないことを指摘し、比喩理解による解釈や、その効果について研究する意義を論じている。第3節「比喩と身体化認知」では、抽象概念の比喩性の問題は、新しいテーマであり、実験的検討を進めることの重要性について述べている。 第3章「比喩の理解と解釈の構造」では、第1節（研究1）と第2節（研究2）において、比喩表現の親しみやすさ評定と自由記述における解釈多様性が正の関係をもつことを明らかにしている。第3節（研究3）では、比喩表現の理解直後に生じる解釈の多様性を、文章再読の実験手続きを元に検討している。 第4章「比喩の理解と効果」では、第1節（研究4）において、比喩理解の過程における、主題と喩辞の役割について質問紙法に基づいて検討し、第2節（研究5）では、比喩の理解において、主題と喩辞の役割の差異を有意味性判断課題によって実験的に解明している。第3節（研究6）では、より自然な場面における比喩の効果を検討する目的で、比喩理解が文章の読解過程に及ぼす影響を実験的に検討している。第4節（研究7）では、比喩理解が文章の読解過程に及ぼす影響を、親しみのある比喩とそうでない比喩の条件と比較して、解明している。第5節（研究8）では、比喩の理解と、面白さなどの表現の評価の関係について質問紙法に基づくパス解析によって検討し、比喩表現の面白さは、解釈の数や理解のしやすさによって説明可能であるとするモデルを立てている。 第5章「比喩と身体化認知」では、抽象概念に見られる比喩性についての検討を行っている。第1節（研究9）では、具体動詞および抽象動詞の理解と、空間表象の結びつきを描画法によって明らかにしている。第2節（研究10）では、具体動詞および抽象動詞の理解時における空間表象の利用を、反応時間を用いた 3 つの実験に基づいて検討している。 第6章「総合的考察」では、第1節で、本研究のまとめを行い、 2 つのフレームワークに基づいて、結果を統合している。第2節では、本研究の意義について、言語理解、概念研究などの観点から論じている。第3節では、今後の展望として、「比喩が使用される動機」「比喩の解釈と評価」「表現としての比喩と身体化認知のかかわり」の3点に注目し、本研究の成果をもとに、比喩理解において比喩の解釈と身体化認知がどのように関わるかについて結論を述べている。			

(論文審査の結果の要旨)

本論文は、比喩理解における解釈多様性と身体化認知に関して、実験法と質問紙法を用いて実証的に解明したものである。オリジナルな言語材料と工夫された実験パラダイムを用いた10個の研究を行い、さらに、「名詞比喩理解における理解による効果」と「抽象-具体概念の比喩性と動詞比喩の発生」についてのフレームワークを提案し、比喩理解による効果と抽象概念理解を支える身体化認知について統合的に検討した論文である。

その論文の特色は以下の3点である。

- (a) 従来十分に解明されていなかった比喩理解による効果と概念理解を支える身体化認知を心理学的に検討している点
- (b) 比喩研究のための実験と調査に基づく巧みな研究手法と材料を開発し、多角的にアプローチしている点
- (c) データの性質に即して、対応分析、多次元尺度解析、ファジイグラフ、パス解析など多彩な多変量解析法を用いて、隠れた構造や認知プロセスを解明している点。

第1章では、本論文の目的として、比喩が理解された効果としての認知の変化と、比喩と身体化認知の関係の解明の2つを挙げている。従来、実証研究が少ない問題に着目した点に、本論文の着眼点の鋭さが見られる。

第2章では、比喩研究の動向について、認知心理学の観点から、従来のモデルを比較検討し、(1)比喩は特殊な過程ではなく、文脈によって半自動的に理解されること、(2)従来の研究は、比喩理解による解釈内容や面白さの認知などについて扱ってこなかったこと、(3)動詞比喩の成立を支える身体化認知について検討されていないことを指摘して、従来の研究の問題点と本研究の目的を明確化している。

第3章の研究1では、親しみやすさの異なる直喩を参加者に提示し、解釈を求め、対応分析によって、親しみやすい比喩の解釈が参加者間で共通している点を計量的に解明している。さらに、研究2では、比喩の解釈を複数選択させる課題を構成して、個人内の解釈多様性と、個人間の共有の程度を、多次元尺度解析とファジイグラフを用いて明らかにしている。これらは、明らかにされた知見とともに手法の開発として、この分野の研究への重要な貢献である。研究3において用いられた、長いテキスト内での比喩理解の効果を明らかにする文章再読パラダイムは、読解に及ぼす比喩の効果を明らかにするユニークな手法である。また読解において親しみのある比喩が、解釈に関連する情報を複数活性化させていることを見いだしたことは、比喩の効果に関する新たな知見である。

第4章では、比喩表現を理解することで、主題や喩辞の知識がどう変化するのか、また比喩表現理解と表現自体の面白さや理解しやすさの評価がどのように関係するかを解明している。これは、比喩の面白さを規定する要因を説明する新たなモデルとして意義がある。

第5章では、具体動詞および抽象動詞の理解と、比喩的な空間表象が結びついていることを描画法と反応時間法を用いて検討している。とくに、具体動詞に比べて、

抽象概念を含む動詞では、上下の空間表象との結びつきが弱まることを見いだしたことは重要な発見である。

第6章「総合的考察」で提案した全体の研究をまとめるフレームワークは、この研究分野の理論的展開への貢献である。さらに、本研究の意義を、言語理解研究、概念研究の中で位置づけ、今後の展望として、3つの課題を明確化している点は、評価できる。

以上のように本論文は、比喻理解における解釈多様性と身体化認知に関して、オリジナルな着想に基づき、新たに開発した巧みな実験手法を用いて、重要な多くの成果をあげているが、今後に残された問題として以下の点が指摘できる。

- (a) 類似性認知モデル，概念比喻仮説，段階モデルなど先行研究のモデルあるいは理論における本研究の位置づけの明確化
- (b) 直喩と隠喩の差異，文脈，個人内と個人間の解釈多様性の考察，比喻理解による他の効果，身体化認知とイメージスキーマの関係などの諸問題の解明
- (c) 結果の一般性の検討，とりわけ本論文で用いられた比喻材料の性質が先行研究の中でどのように位置づけられるかについての考察
- (d) 比喻研究と，言語，概念，思考などのより普遍的なテーマとの連関や発展性のさらなる検討。

しかし、こうした点は、本論文で見出された多くの新しい知見の価値をいささかも損なうものではない。

よって本論文は博士（教育学）の学位論文として価値あるものと認める。また、平成21年11月26日、論文内容とそれに関連した試問を行った結果、合格と認めた。

論文内容の要旨及び審査の結果の要旨は、本学学術情報リポジトリに掲載し、公表とする。特許申請、雑誌掲載等の関係により、学位授与後即日公表することに支障がある場合は、以下に公表可能とする日付を記入すること。

要旨公開可能日： 年 月 日以降